

まちづくりを考える日
～みんなのアイデアを自分ごとに2026～

不登校・ひきこもりの居場所づくり

～立場にとらわれないサード・プレイス～



みんなの居場所『ぼちぼち』ピアスタッフ
足立 祐輔

居場所づくりのきっかけ



増加傾向にある不登校・ひきこもりと、彼らの「生きづらさ」

公立小中学校における不登校児童生徒数は、松江市内全体で約400～500人規模（傾向含む）とされている。

松江市を含む島根県内のひきこもり状態にある人数は、直近の調査（全年齢対象）で961人。特に40代以上の高齢化・長期化が大きな課題となっている。

課題解決に向け、川津地区社会福祉協議会の事業としてスタート

不登校・ひきこもり当事者であり、同じような背景のある人ならではの「生きづらさ」を知ってもらうための活動などを行っている足立に、運営を一任。

自身も、かつて松江市内にあった居場所を利用することで、一定の社会参加への自信を取り戻した経験があり、それを現在の居場所づくりにも活かしている。

2024年1月より、みんなの居場所『ぼちぼち』オープン！

居場所を運営するにあたって



ピアスタッフってなに？

「ピア（peer）」とは、英語で「仲間」や「同等（同格）の人」、「同僚」を意味する言葉。みんなと同じ立場で運営をしており、自身にとっても大切な居場所。基本的には「ピアサポーター」に近い理念を持っているが、支援する側／される側といった考え方はしておらず、むしろメンバーに頼ったりすることも多い。

立場や世代などに関わらず、誰もがありのままで居ていい場所

不登校・ひきこもり当事者に限らず、その家族や支援者、理解・関心のある方の利用も幅広く受け入れている。多様な価値観に触れることができ、様々な情報を得ることができる。

ピアスタッフが用意する企画に参加するもしないも自由。いつ来て、いつ帰ってもよい。ルールなどは必要最低限しか設けておらず、みんなで話し合うことが基本。

毎月第2・第4水曜日 10:00～17:00

川津公民館 3階 AV室 (2階 和室)

どんなことをしているの？



みんなでボードゲームをやってみよう！

のんびり3時のおやつはいかが？

どんなことをしているの？



みんなで「100の質問」に答えてみよう！



朝酌川河川敷などへのお散歩

どんなことをしているの？



調理実習



川津公民館文化祭へ出店

どんなことをしているの？



松江城山公園にてお花見



カラオケ

居場所づくりの意義



地域に「サード・プレイス」を増やす

左記の図を自分ごとに当てはめてみた時、あなたの中には第三の場所がありますか？

不登校・ひきこもりが置かれる状況

学校や職場から離れてしまった時、自分が居られる場所が家庭のみになってしまいがちである。

特に大人の場合は、就学・就労をしていないことが自己責任論と結び付けられ、自信の喪失から更に閉じこもってしまうケースも。

立場や世代にとらわれず交流できる場所

たとえ何者でなくても、誰もがありのままで居られる場所があることで、多様な価値観に触れられる。

居場所づくりに必要なこと



特別なことは必要なく、色々なやり方があってよい

みんなの居場所『ぼちぼち』のスタンスにならう必要はまったくなく、むしろ居場所そのものも多様であるべき。ピアじゃなくてもいいし、対象を絞ってもいい。実際に、当事者会・家族会のようなものがあったら嬉しいという声もある。同じ立場の人のみが集って、悩みなどを共有、共感し合うことも大切。

地域に知ってもらうことの重要性

居場所づくりと並行して、地域の中で不登校・ひきこもりについて正しく知ってもらうことも必要。居場所ばかりを増やして世間との分断を生んだり、偏見を深めたりしてしまうことがあってはならない。

居場所は、必ずしもステップアップの場ではない

就学・就労に向かうまでの訓練の場のような考え方はしない。うまくいかなくなったら戻ってきてもいいし、もちろんうまくいっていても来てもいい。誰かが誰かを支援するための場ではない。成果主義を捨てる。